

全地球史アトラス

10. 中生代から人類の誕生まで

大陸の離合集散と生物進化

急速に温暖化が進んだパンゲア大陸では、

生物が哺乳類と爬虫類とに分かれ、再び進化を始める

多種多様に進化していく爬虫類に対し、

哺乳類は、ネズミ程度の大きさの夜行性動物であり、

まだ日陰の存在だった 「アデロバシレウス(哺乳類)」

一方の爬虫類は恐竜へと変化していき、いよいよその黄金時代を迎えようとしていた

その優位な体軀を生かし、生存競争をリードしていったのだ 「エオラプトル(爬虫類)」

HiRマグマにより突然変異が起こり、生物は大陸の分裂と共に茎進化を起こす

恐竜が地球生態系の頂点に君臨する時代の到来である

分裂したパンゲアの北側部分が再度融合

ここでは冠進化が起こった

大陸の離合集散により生物は進化して多種多様な種を生み出し、

そして全ての大陸へと広がっていった

こうして恐竜の繁栄する時代が訪れるのである

一方植物では、より進んだ繁栄システムを持つ被子植物が誕生する

被子植物は動物の力を借りて受粉することにより、生息領域を広げた

裸子植物は徐々に生息領域を奪われていったのである

霊長類誕生

人類に繋がる霊長類の誕生は、 Gondwana大陸のリフト帯で起こった

ネズミやウサギなどの齧歯類から、茎進化によって新しい種が生まれたのだ 「プレシアダビス」

Gondwana大陸は、さらに南米大陸とアフリカ大陸に分離

南米大陸に渡った霊長類の祖先はそこで孤立進化し、新世界ザルとなる

一方のアフリカ大陸では、旧世界ザルへと変化

南極大陸から分離したインド大陸では、ロリスに変化した。

こうして大陸の離散によってそれぞれ独自の進化を遂げ、

様々な霊長類の種が分岐していった

大規模なプルームが太平洋プレートを押し上げ、海水準が上昇